

## 筑波大学の印象

深 石 博 夫

常磐線荒川沖駅から北西へ、車で20分程走ると、大関東平野の草原を思わせる視界の中に近代的なビルディング群が現われる。これが筑波研究学園都市を形成する各種の省庁所轄研究所と公務員宿舎である。さらに、10分程で、付属病院を経て、筑波大学の中央部に到着する。

筑波大学は、東京教育大学の移転を契機として、新しい構想に基づいて、昭和48年10月に創設され、53年3月には第一回の卒業生を送り出した。筆者は昭和53年度文部省内地研究員として、筑波大学において研究に従事する機会を与えられたので、体験を交えながら、この新大学の紹介をしてみたい。私が籍を置いた数学系（数学教室に当る）では、この年に初めて研究員4名を受け入れ、筑波山のよく見える8階のラウンジを研究員室として使用させてくれた。

**数学系** 数学系は第一学群研究棟の5階から8階を占めているが、総勢50名（昭和53年度は教授14、助教授13、講師7、助手13、準研究員3）という大所帯で、研究室が足りないために、助手は皆2人1部屋であった。6階のラウンジが教官のたまり場になっていて、そこでお茶を飲んだり、弁当を使ったりできるので、自然にいろいろな人と話をするようになった。大教授も若い助手もかなりフランクに話をしているのを見て、教育大時代との雰囲気の違いに驚いた。

ゼミナールは、各教授の部屋に廊下を隔てて向いあっているゼミ室で行われる。われわれの指導教官兎玉之宏教授の時間割は次のようなものであった。

月曜	1:00～5:30頃	ゼミ（位相空間論）
火曜	10:30～11:45	講義（大学院）
	1:00～3:30	ゼミ（Hilbert cube manifolds, 大学院1年）
	3:40～4:55	講義（医学専門学群）
水曜	10:00～12:00	} ゼミ（Shape Theory, 大学院2・3年）
	1:00～5:30頃	

木曜 9:00~10:15 講義 (第一学群)

10:30~12:30頃 ゼミ (代数的位相幾何学, 大学院1年)

児玉研究室所属の大学院生は全部合わせても5人だから、毎週ゼミで論文を読まされることになる。児玉教授の指導の特徴は、学生のレベルにあまり関係なく、新しい論文をどんどん読ませることである。学生は割り当てられた論文をこなすのに、自分で基礎的な書物を勉強しながら、並行して引用論文を調べてかなり前から準備をする必要がある。ゼミナールの進み方は速い。やさしい部分を簡単にすませ、重要な部分に時間をかけられるようにしておかないと行き詰ってしまう。教授の関心は新しい数学的事実と証明方法にあるので、ゼミナールでは、細かい検証よりも全体を通した主題と証明を成功させたアイデアの説明が求められる。このような指導方法は、修士課程段階の学生には、極めて厳しい訓練になるが、これを越えた場合には、既に第一線の話題に触れているから、短時日で自分の仕事を始められる。その代わりゼミナールについていけない者は、独自にこれを克服する道を探さなければならない。

**授業** 筑波大学は3学期制を採用している。1時限は75分授業で、平日は5時限ある。1学期(10週)1時限の講義をもって1単位とするために、75分という数字ができたものであろう。1コマ90分~100分の授業に慣れてきた教官には、非常に短かく感じられ、3学期かけても通常の内容を消化できないとの声を聞いた。1時限75分の授業は、教官には講義内容の精選と事前の準備を要求し、学生には授業時間内に十分に考える余裕を与えないようである。

学部段階の学生は、教官との接触の機会が少ない。講義棟が学系教官の居る研究棟から離れているので、授業以外で教官に会えるのは、研究室を訪ねて質問をする時と4年次のゼミナールの時位のものである。これにひきかえ、大学院生は控室を研究棟の中に持っており、コピー室でも顔を合わせるし、何でも指導教官に相談している。

**大学院** 大学院博士課程は、5年制の一貫教育になっている点が従来の大学院と大きく違っている。従来の修士2年・博士3年という大学院制度に比べれば、院生はじっくりと腰をすえた研究ができる反面、教官は大学院の入学試験時に、博士課程にふさわしい可能性をもった学生を選考するのに苦心する。修

士論文は、中間報告という形で2年次の終りに提出される。以前から、修士課程2年を修了して、助手に採用される例が多かったが、5年制の大学院では、このような場合、中途退学して就職することになる。その際、修士号は退学する者にだけ、退学の時点で与えられる<sup>1)</sup>ので、3年次・4年次で退学して就職する者は、修士号の修得が他大学の修士課程修了者よりも遅れることになり、不利を被ることが予想される。

修士課程は、「従来のように研究能力の涵養にあたるだけでなく、高度の専門的知識・技能を修得させ、専門性の高い職業人の養成と社会人の再教育」(『筑波大学紹介』昭和54年度)を目的としており、研究者の養成を目的とする博士課程と区別されている。修士課程は2年制で、博士課程への編入は原則としてできない<sup>2)</sup>。実際上は、専攻によって同じ指導教官に属する修士課程の学生と博士課程の学生が、同じテーマのゼミナールに参加することが可能である。数学を例にとれば、教育研究科所属の数学教育専攻の学生と理工学研究科所属の数学専攻の学生は、どちらも修士課程にありながら、博士課程の数学研究科所属の学生と一緒にゼミナールで指導を受け、修士論文を書ことができる。詳しく言えば、数学教育専攻の学生は、更に「数学教育」を主論文(400字詰原稿用紙約200枚)とする者と、「数学」を主論文とし、「数学教育」を副論文(同上約50枚)とする者とに分けられるのである。

**主専攻** 筑波大学では、学類が学部段階の基本的な教育組織になっており、他大学の学科に当るものがないので、「主専攻」という名称で中心的な履修範囲を表わしている。主専攻分野の選択・決定は、学類によって多少異なるが、大部分は2年次の終りに行われる。

**専門外国語** 筑波大学の一般教育科目は国語と情報処理を必修としていることが特色である。(資料4を参照)この他、通常の外語の他に「専門外国語」を設けて、各専門の教官(語学専門に限らない)が対応する主専攻の学生に専門外国語の読み方を指導している。これは筑波大学の発足時に、語学の教官が足りなかったために、苦肉の策として考えられた由であるが、今では必修科目として定着している。専門外国語の内容を知るために、『授業科目概要』からそのテキストを挙げてみよう。

対 象	テ キ ス ト
人文学類 哲 学	The Age of Analysis
言語学	Noam Chomsky: The Logical Structure of Linguistic Theory
〃	Edward Sapir: Language
社会学類 法 学	J. B. Grant: Family Law
〃	Norman Cohn: The Pursuit of the Millennium
経済学	J. Potter: The American Economy between the World Wars
自然科学類 教 学	W. R. Fuchs: Mathematics for the Modern Mind
〃	J. M. Dubbey: Developments of Modern Mathematics
〃	Halmos: Naive Set Theory
比較文化学類	Edwin O. Reischauer: The Japanese
〃	〃 : Toward the 21st Century
〃	E. M. Foster: A Passage to India
〃	Ternce Hawkes, Methuen: Structuralism and Semiotics
〃	B. H. Farmer: Ceylon, A Divided Nation
〃	Leon Edel: The Psychological Novel
社会工学類	Goldschmidt al. ed.: Industrial Concentration, the New Learning
〃	Miller: The Economics of Macro Issues
情報学類	Hermes: Enumerability, Decidability, Continuity
〃	David Levy: Chess and Computers
〃	A. N. Whitehead: An Introduction to Mathematics
〃	K. Pearson: The Grammar of Science

図書館 付属中央図書館は、本年完成した由であるが、私の滞在中は建築中で、専ら北ランチと呼ばれる分館を利用した。どこの図書館も大量の図書を長期間貸出すことを好まないらしい。集中管理方式を打ち出している筑波大学の図書館は、東京教育大時代に、教室毎に図書室を作っていたのを改め、図書を中央図書館に集中しておく方針であった。ところが、自然科学関係の図書を置いている北ランチでさえ、研究棟から出向くのに10~15分もかかるので論

文のコピーを取りに行くだけでもわずらわしい状態であった。また、学系の研究費で購入した単行本や雑誌を図書館に置くのはおかしいという声が強くなって、結局数学系の資料室として、一定数の単行本とほとんどすべての購入雑誌を研究棟に持ち込むことが認められ、数学図書室の確保ができた。ここに至るまで、学系図書委員の努力と夏休み中に図書の移動と整備をする等の労力奉仕があった。同じ自然科学の分野でも数学と他の実験系の人達では図書に関する考え方が違うらしい。実験を主とする学系では、図書室を作ることに積極的ではなかったようである。数学の研究には、図書が実験道具の役割を果たしており、手近にあることが大切なのだということを理解してもらいたい。

**筑波の生活** 教授の多くは東京に自宅を持ち、筑波地区に単身赴任用の公務員住宅を借りている。週の始めに筑波に来て、3～4泊したあと週末に自宅へ帰るとい生活である。助教授以下の若い層では、逆に筑波に定着している人が多くなる。いずれにしても、高層の公務員住宅の集団生活では、茨城の風土に接するのに限りがあろう。筆者は運よく、豊里町の町営住宅を借りることができて、短期間ながら茨城の人と土に密着した生活を送った。

大学の近辺には、開設から5年の間に、食べ物屋や娯楽施設、下宿・アパート等ができて、日常生活には不自由を感じない程になっている。しかし、町営住宅は大学から西へ6 Kmのところであって、近くには、陸田と芝畑と松林のみで商店がないので、週一回車で30分の位置にあるスーパー・ストアへ買い出しに行った。

筑波大学のある桜村や豊里町は国鉄の駅から遠く、貨物の定期便がないので、荷物は配達区域外になっている。電話で連絡を受ける度に、土浦駅や荒川沖駅、関東鉄道の石下駅いしげまで何度か荷物を受け取りに行ったものである。

小説『土』で有名な長塚節の生家は、豊里町の隣町石下にある。節がこの小説で描いた、広大な平野と純朴な農民の姿と方言とは、今なお、取り残されたようにこの地に生きついでいる。『土』に現われる会話は、その独得な鄙びた抑揚をもって、私の耳に懐しく響く。

木枯が吹いて、筑波山を覆っていた木々の枯葉が皆落ちてしまう頃、山は紫色になり、それが若葉の芽ぶくまで続く。土地の人はこの山を紫峰という。「む

らさき」とは常陸の特産である醤油の雅称でもある。

筆者は、滞在期間中筑波大学数学系の方々を始め、元公立中学校長大塚猛雄氏御夫妻に、生活の多面にわたりお世話になった。この稿を借りて、謝意を表わしたい。(1979.12.14)

資料1 筑波大学の教育組織と研究組織

教育組織

学群・学類(学生の所属)

第一学群 (基礎学群)	人文学類	医学専門学群
	社会学類	
	自然科学類	
第二学群 (文化・生物学群)	比較文化学類	体育専門学群
	人間学類	
	生物学類 農林学類	
第三学群 (経営・工学群)	社会工学類	芸術専門学群
	情報学類	
	基礎工学類	

大 学 院

修士課程	博士課程
地域研究研究科	哲学・思想研究科
教育研究科	歴史・人類学研究科
経営・政策科学研究科	文芸・言語研究科
理工学研究科	教育学研究科
環境科学研究科	心理学研究科
医学研究科	心身障害学研究科
体育研究科	社会科学研究科
芸術研究科	社会工学研究科
	生物科学研究科
	農学研究科
	数学研究科
	物理学研究科
	化学研究科
	地球科学研究科
	体育科学研究科
	芸術学研究科
	物理工学研究科
	物質工学研究科
	構造工学研究科
	電子・情報工学研究科
	医学研究科

研究組織

学系(教員の所属)

哲学・思想学系
歴史・人類学系
文芸・言語学系
現代語・現代文化学系
教育学系
心理学系
心身障害学系
社会科学系
社会工学系
生物学系
農林学系
農林工学系
応用生物化学系
数学系
物理学系
化学系
地球科学系
物理工学系
物質工学系
構造工学系
電子・情報工学系
体育科学系
芸術学系
基礎医学系
臨床医学系
社会医学系

特別プロジェクト研究組織

国民体力特別プロジェクト研究
核物性特別プロジェクト研究
ラテンアメリカ特別プロジェクト研究



センター等

- (外国語センター) (体育センター) (農林技術センター) (教育機器センター) (加速器センター) (低温センター) (学術情報処理センター)  
 (アイソトープセンター) (分析センター) (工 作センター) (水理実験センター) (動物実験センター) (下田臨海実験センター) (菅平高原実験センター)  
 (プラズマ研究センター) (理療科教員養成施設) (付 属 図 書 館) (病 属 病 院) (学 校 教 育 部) (付 属 学 校) (保健管理センター)  
 (大 学 会 館)

資料2 筑波大学教職員数  
 <定員>

学 長	副学長	教 授	助教授	講 師	助 手	計	教 諭	養 護 教 諭	実 習 助 手	寮 母	その 他 の 職 員	合 計
1	5	438	373	374	50	1,241	410	9	4	25	1,761	3,450

<職員>

昭和53年6月1日現在

区 分	学 長	副学長	教 授	助教授	講 師	助 手	計	教 諭	養 護 教 諭	実 習 助 手	寮 母	その 他 の 職 員	合 計
学 長・副 学 長 事 務 局	1	5										1,316	1,316
付 属 病 院												329	329
哲 学・思 想 学 系			9	9	4	2	24						24
歴 史・人 類 学 系			13	11		3	27						27
文 芸・言 語 学 系			17	14	5	1	37						37
現 代 語・現 代 文 化 学 系			12	16	16	1	45						45
教 育 学 系			17	9	5	1	32						32
心 理 学 系			8	9	1	5	23						23
心 身 障 害 学 系			9	12	7	3	31						31
社 会 科 学 系			21	10	5		36						36
社 会 工 学 系			17	15	7	3	42						42
生 物 科 学 系			15	12	14	3	44						44
農 林 学 系			15	17	9	12	53						53
農 林 工 学 系			11	6	6	5	28						28
応 用 生 物 化 学 系			14	12	7	8	41						41
数 学 系			14	13	6	13	46						46*)
物 理 学 系			17	16	18	10	61						61
化 学 系			12	7	13	3	35						35
地 球 科 学 系			14	12	12	4	42						42

\*) 集計の時期が違うために、本文中の数字と異なる。

物 理 工 学 系		8	7	10	8	33										33
物 質 工 学 系		5	6	2	2	15										15
構 造 工 学 系		5	3	1	3	12										12
電 子・情 報 工 学 系		10	7	8	4	29										29
体 育 科 学 系		39	39	26	3	107										107
芸 術 学 系		16	12	7	1	36										36
基 礎 医 学 系		11	13	24		48										48
臨 床 医 学 系		24	26	97		147										147
社 会 医 学 系		7	5	7		19										19
学 校 教 育 部		3	2		2	7										7
付 属 学 校							408	9	4	25						446
医 療 技 術 短 期 大 学 部																
創 設 準 備 室		1				1										1
計	1	5	364	320	317	100	1,107	408	9	4	25	1,645	3,198			

(注) 外国人教員数は、教師23名 講師14名である。

資料3 筑波大学学生定員

学 群	学 類	入 学 定 員	総 定 員
第 一 学 群	人 文 学 類	120人	480人
	社 会 学 類	80	320
	自 然 学 類	200	800
	計	400	1,600
第 二 学 群	比 較 文 化 学 類	80	320
	人 間 学 類	120	480
	生 物 学 類	80	320
	農 林 学 類	120	480
	計	400	1,600
第 三 学 群	社 会 工 学 類	120	360
	情 報 学 類	80	240
	基 礎 工 学 類	160	480
	計	360	1,080
医 学 専 門 学 群		100	600
体 育 専 門 学 群		240	960
芸 術 専 門 学 群		70	280
合 計		1,570	6,120

修士課程(2年制)

研 究 科	専 攻	入 学 定 員	総 定 員
地 域 研 究 研 究 科	地 域 研 究	40人	80人
教 育 研 究 科	障 害 児 教 育	25	50
	教 科 教 育	80	140
経 営・政 策 科 学 研 究 科	経 営・政 策 科 学	50	90
理 工 学 研 究 科	理 工 学	50	100
環 境 科 学 研 究 科	環 境 科 学	90	160



医 学 研 究 科	医 科 学	20	20
体 育 研 究 科	体 育 方 法 学	20	40
	コ ー チ ン グ 学	20	40
	健 康 教 育 学	20	40
芸 術 研 究 科	美 術 学	15	30
	デ ザ イ ン 学	15	30
合 計		445	820

## 博士課程（5年制）

研 究 科	専 攻	入 学 定 員	総 定 員
哲 学・思想研究科	哲 学	2人	10人
	倫 理 学	2	10
	宗 教 学・比 較 思 想 学	2	10
歴 史・人 類 学 研 究 科	史 学	6	30
	文 化 人 類 学	4	20
文 芸・言 語 研 究 科	文 学	4	20
	各 国 文 学	12	60
	言 語 学	4	20
教 育 学 研 究 科	教 育 学	14	70
心 理 学 研 究 科	心 理 学	8	40
心 身 障 害 学 研 究 科	心 身 障 害 学	8	40
社 会 学 研 究 科	法 学	4	20
	経 済 学	3	15
	社 会 学	2	10
社 会 工 学 研 究 科	計 量 計 画 学	6	30
	経 営 工 学	4	4
	都 市・地 域 計 画 学	3	3
	生 物 学	4	20
生 物 学 研 究 科	生 物 物 理 化 学	6	30
	農 林 学	7	35
農 学 研 究 科	農 林 工 学	5	25
	応 用 生 物 化 学	8	40
	数 学	12	60
数 学 研 究 科	数 学	12	60
物 理 学 研 究 科	物 理 学	18	90
化 学 研 究 科	化 学	10	50
地 球 学 研 究 科	地 理 学・水 文 学	5	25
	地 質 学	5	25
体 育 学 研 究 科	体 育 科 学	10	50
芸 術 学 研 究 科	芸 術 学	7	35
合 計		185	900

資料 4 筑波大学の授業科目

第一学群・第二学群・第三学群・体育専門学群・芸術専門学群

授業科目の区分	内 容	最低履修 単 位 数	大学設置基準上 の 区 分
1. 専攻科目	当該専門分野のうちで、重点的に履修を深める分野に係る科目	40単位	} 専門教育科目 (76単位)
2. 基礎科目	当該専門分野に係る科目のうちで、専攻科目の履修のための基礎となるもの	12単位	
3. 関連科目	A 当該専門分野の履修に関連して、周辺領域から履修範囲が指示される科目 B 当該専門分野の履修に関連して、学生が自由選択により履修する科目	28単位 12単位	
4. 共通科目 総合科目	A 学群ごとに、当該学群の教育目的に則して編成される比較的広域的な総合科目 B 学類ごとに、当該学類の性格に応じて編成される比較的範囲の狭い総合科目 C 新入生に対して、最初の1学期に集中的に実施する科目（フレッシュマンセミナー）	} 12単位	} 一般教育科目 (24~36単位)
体 育	全在学期間を通じて、健康管理及び体力増進を目的とする科目		
外 国 語	第1外国語 専門語学(4単位)及び一般語学(4単位)に区分し、一般語学については実用的能力の訓練を中心とする 第2外国語 実用的能力の訓練を中心とする	} 12単位	} 外国語科目 (8 単位)
国 語	自己の思想を正確に表現するための技術の修得を目的とする科目		
情報処理	情報科学に関する基礎的な教育を目的とする科目	2 単位	} 一般教育科目
合 計		124単位	(124単位)

資料5 筑波大学の授業内容

第一学群

学 類	学士号	主 専 攻 分 野 の 例 及 び 内 容	
人文学類	文学士	哲 学	哲学（哲学，倫理学，宗教学など），東洋・西洋の思想史 日本史，東洋史，西洋史，歴史地理学 考古学・民俗学—日本，東洋，西洋の考古学，民俗学，人類学 言 語 学—日本語学，中国語学，英語学，仏語学などの個別語学，一般言語学
社会学類	社会科学士	社 会 学	理論社会学，社会調査論 公法，私法 政治学—政治思想，政治外交史 経 済 学—経済理論，経済史，経済政策，現代経済論
自然科学類	理学士	数 理 学	代数学，幾何学，解析学，位相数学，情報数学 理論物理学，実験物理学 無機化学，有機化学，物理化学 地 球 科 学—地理学，水文学，地質学 動 物 学—動物学，植物学（昭和49年度入学者のみ適用）

第二学群

学 類	学士号	主 専 攻 分 野 の 例 及 び 内 容	
比較文化学類	文学士	比 較 文 学	一般文学，比較文学，各国文学（日・中・英・米・独・仏など） 比較地域文化学—アジア地域文化論，ヨーロッパ地域文化論，アメリカ地域文化論，比較文化論 現 代 思 想 学—現代哲学思想，情報文化論，現代社会思想
人間学類	教育学士	教 育 学	教育基礎学，教育環境学，教育経営学，教育方法学，教科教育学 心 理 学—実験心理学，産業・社会心理学，教育心理学，発達心理学，臨床心理学 心 身 障 害 学—視覚障害学，聴覚・言語障害学，知能障害学，運動障害学
生物学類	理学士	生 物 学	生物学（基礎）—系統分類学，形態学，生物化学，生物物理学，遺伝学，細胞生物学，生態学，発生生物学 生物学（応用）—環境生物学，医生物学，応用生物化学
農林学類	農学士	生 物 資 源 生 産 学	植物資源生産学，動物資源生産学，生物資源保護学 生 物 環 境 造 成 学—生物環境制御学，生物環境基礎学，生物生産施設・機械学 生 物 応 用 化 学—生産生物化学，生物化学工学 生 物 生 産 組 織 学—生物生産組織学

第三学群

学 類	学士号	主 専 攻 分 野 の 例 及 び 内 容
社会工学類	社会科学士	社会経済計画——社会システム論, 計量社会・経済分析, 経済理論, 政策分析, 経済・資源計画など 経営工学——数理計画, シミュレーション, 生産管理, 財務管理, 経営経済学 都市計画——都市・地域構造分析, 各種計画手法, 都市・地域計画, 環境・施設計画, 都市・地域経済学, 地方行政など
情報学類	工学士	情報科学——情報基礎論, プログラム理論, 数値解析, 人工知能など 情報工学——計算機原論, 情報処理, 最適化工学, 情報通信工学など
基礎工学類		物理工学——原子物理学, 電磁気学, 光学, エレクトロニクスなど 物質・分子工学——物質科学, 物質構造, 材料工学, 結晶工学, 工業化変換工学——電気力変換, 核力変換, 熱変換, 制御回路, 電力輸送など 構造工学——構造解析工学, 流体力学, 材料力学, 振動工学など

体育専門学群 (第1専攻は1年次から, 第2専攻は3年次から選択)

学士号	主 専 攻 分 野 の 例 及 び 内 容	
	第1専攻	第 2 専 攻
体 育 学 士	第 1 類 (個人的種目)	体 育 学——体育原理・体育方法学, 体育史, 武道論, 体育社会学, 体育経営学, 体育心理学・運動測定学, 運動力学, 運動生理学, 体力学, 運動方法学 健康教育学——形態学, 生理学, 栄養学, 衛生学, 健康管理学, 療育学
	第 2 類 (集团的種目)	体 育 学——体育原理・体育方法学, 体育史, 武道論, 体育社会学, 体育経営学, 体育心理学・運動測定学, 運動力学, 運動生理学, 体力学, 運動方法学 健康教育学——形態学, 生理学, 栄養学, 衛生学, 健康管理学, 療育学
	第 3 類 (武 道)	体 育 学——体育原理・体育方法学, 体育史, 武道論, 体育社会学, 体育経営学, 体育心理学・運動測定学, 運動力学, 運動生理学, 体力学, 運動方法学 健康教育学——形態学, 生理学, 栄養学, 衛生学, 健康管理学, 療育学

芸術専門学群

学士号	主専攻分野の例及び内容
芸術学士	芸術学——芸術学・美術史 美術——絵画、彫塑、書 構成——構成、総合造形 デザイン——視覚伝達デザイン、環境デザイン、生産デザイン、建築デザイン

医学専門学群

学士号	専門科目及びその内容
医学士	基礎医科学——(生物有機化学, 生物物理化学, 感染生物学) 細胞生物学——細胞の構造と機能 人間個体生物学——組織と発生, 人体構造入門と運動系, 発病機構入門, 循環系, 呼吸系, 消化系, 代謝・内分泌系, 生殖系, 泌尿系, 神経系, 感覚系, 造血・凝固系, 皮膚・結合組織系, 精神, 成長・発達と加齢, 発病及び生体反応 人間集団生物学——自然と開発, 人間集団の動き, 人間集団の異常の発生機構と評価, 集団の健康管理, 実習(実験室, 臨場, 法医) 臨床入門——症候・診断・治療・予防に関する講義, 基礎的臨床入門実習 臨床実習(大学病院)——病棟実習(内科, 外科, 小児, 周産期), 手術部実習, 外来実習(運動器, 泌尿器, 皮膚, 精神, 耳鼻咽喉, 眼) 臨床実習(地域病院)——内科, 外科, 小児科, 産婦人科, 精神科, 施設研修(胸部疾患, 伝染病, 身障) CPC及びCCC コロキウム, 総合講義, 関連講義, 総括講義——臨床講義

修士課程

研究科	学位	専攻	内容
地域研究	国際学修士	地域研究	世界の諸地域(日本を含む)に関する自然環境, 思想・文化形態, 社会構造および政治・経済情勢など語学教育を重視
教育	教育学修士	障害児教育 教科教育	視覚障害, 聴覚・言語障害, 運動障害(病弱を含む), 知能障害(行動障害を含む)など学校教育, 国語教育, 数学教育, 英語教育, 理科教育, 社会科教育各々コース別に理論と実践の専門的能力を充実
経営・政策科学	経済学修士	経営・政策科学	経営関係(経済予測, 意志決定科学, 経営情報など), 公共政策関係(経済・地域・国際開発計画, 教育・医療・社会保障・資源・エネルギー計画など)
理工学	工学修士又は理学修士	理工学	数学, 物理, 化学, 地球科学, 物理工学, 物質工学, 構造工学, 電子・情報工学の各分野

環 境 科 学	学術修士	環 境 科 学	環境保全, 環境開発研究, 環境政策, 環境総合解析
医 科 学	医科学修士	医 科 学	人体形態学(解剖学, 病理学), 人体機能学(生化学, 生理学, 薬理学, 臨床検査), 医学生物学(病原微生物学, 遺伝学, 免疫学), 医学工学(医用工学, 人工臓器), 社会医学(疫学, 産業衛生学, 環境衛生学, 医学社会学, 病院管理学, 医療福祉学)
体 育	体育学修士	体育方法学 コ ー チ 学 健康教育学	学校や地域における体育の方法論的研究(教員, 指導者, 行政担当者など) スポーツや武道などに関する科学的なコーチングの研究 (運動学について高度の知識を身につけたコーチャー, 指導者など) 学校や地域における健康教育に関する基礎的, 実践的研究
芸 術	芸術学修士	美 デ ザ イ ン	絵画, 彫塑及び書 構成, 総合造形, 視覚伝達デザイン, 生産デザイン, 環境デザイン及び建築デザイン

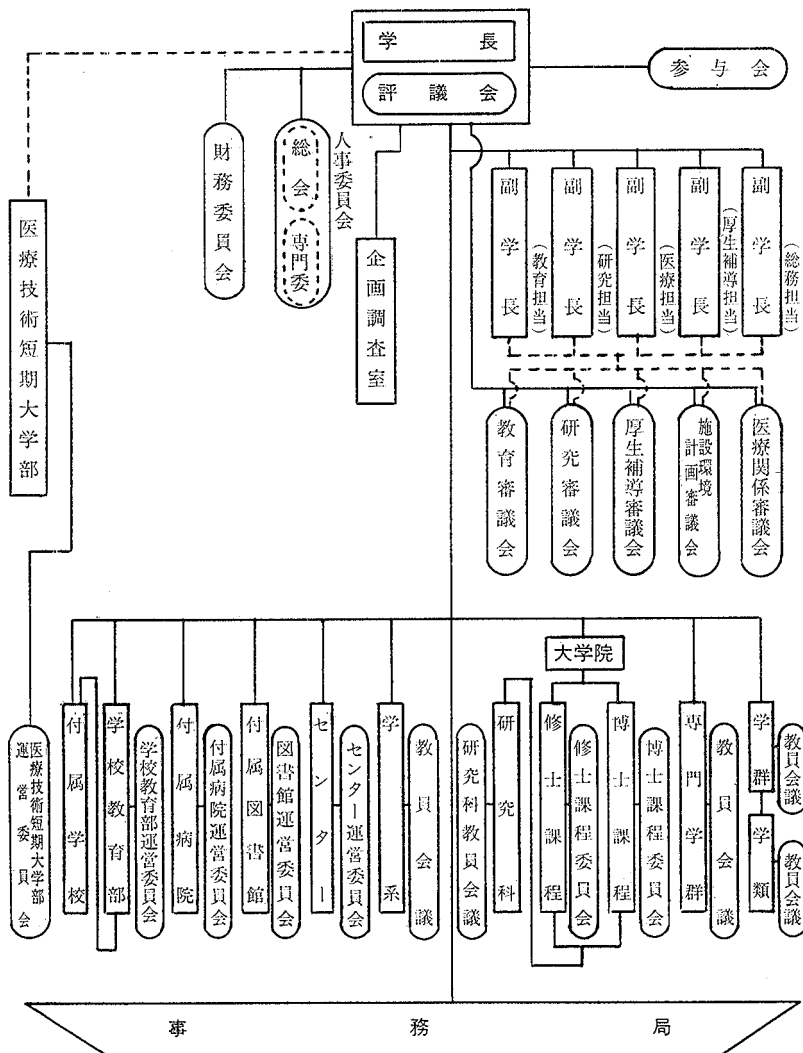
博士課程

研究科	学 位	専 攻	内 容
哲 学・思想	文学博士	哲 学 倫 理 学 宗教学・比較思想学	哲学(東洋・西洋の哲学を含む), 科学哲学(論理学及び数学・自然科学・社会科学哲学を含む), 哲学思想史(東洋・西洋) 倫理学(東洋・西洋の倫理学を含む), 倫理思想史(日本・東洋・西洋) 宗教学・宗教思想史, 比較思想学(思想及び文化に関する比較論的研究)
歴史・人類学	文学博士	史 学 文 化 人 類 学	日本史, 中国史, アジア史, 西洋史, オリエンツ史, 歴史地理学 民俗・民族学(日本民俗学・比較民俗学・民族学・民族誌学など), 考古学(先史学・比較考古学など)
文 芸・言語	文学博士	文 各 国 文 学 言 語 学	文芸批評, 比較文学, 文体論, 表現論, 文献学, 西洋古典学など 日本文学, イギリス文学, アメリカ文学, フランス文学, ドイツ文学, 中国文学など 一般言語学, 応用言語学, 日本語学, 英語学, フランス語学, 中国語学など
教 育 学	教育学博士	教 育 学	教育基礎学, 教育環境学, 教育経営学, 教育方法学, 教科教育学
心 理 学	教育学博士	心 理 学	実験心理学, 教育・臨床心理学
心身障害学	教育学博士	心 身 障 害 学	視覚障害学, 聴覚・言語障害学, 運動障害学, 知能障害学, 病弱・虚弱療育学, 行動・情緒障害学, 重複障害

社会科学	法学博士 経済学博士 社会学博士	法 経 社	学 学 学	環境法, 土地法, 国際取引法など 経済理論, 経済政策, 経済史, 日本経済 論, 国際経済論, 経済統計論 理論社会学, 福祉社会学, 社会開発論	
社会工学	別に定める 学位	計 経 都	量 営 市	計 工 地	基礎領域(社会システム論, 経済理論, 計量分析, 計画理論など), 政策科学, 経 営科学 経営科学, オペレーションズリサーチなど 地域科学, 都市計画など
生物科学	理学博士	生 生	物 物	学 理	分類系統学, 細胞生物学, 発生生物学, 遺伝学, 微細構造学, 生態学など 代謝生理化学, 細胞生化学, 発生生化学, 遺伝生化学, 生化生態学, 生体エネルギ ー学, 情報生理学, 生体膜生理学, 中枢 神経生理学など
農学	農学博士	農 農 応	林 林 用	工 学 化	農学, 農村経済学, 林学 農業土木学, 農業機械・施設学, 農林・ 林産工学 土壌科学・植物栄養学, 応用生化学, 生 物化学工学
数学	理学博士	数		学	解析学, 代数学, 幾何学, 情報数学
物理学	理学博士	物	理	学	素粒子物理学, 原子核物理学, 物性物理 学, プラズマ物理学, 光学
化学	理学博士	化		学	物理化学, 有機物理化学, 分析化学, 放 射化学, 無機化学, 宇宙化学, 有機化学, 有機合成化学, 天然物化学, 反応有機化 学
地球科学	理学博士	地 地	理 質	学 学	人文地理学, 地誌学, 気候学, 水文学, 地形学など 層位学, 構造地質学, 古生物学, 岩石学, 鉱物学, 鉱床学など
体育科学	教育学博士	体	育	科 学	体育思想・体育史, 体育社会学, 体育心 理学, 運動力学, 運動生理学, 体力学, 発達運動学, 運動栄養学
芸術学	学術博士 文学博士	芸	術	学	芸術学(芸術学, 美術史), デザイン学 (視覚伝達・生産・環境・建築デザイン) など

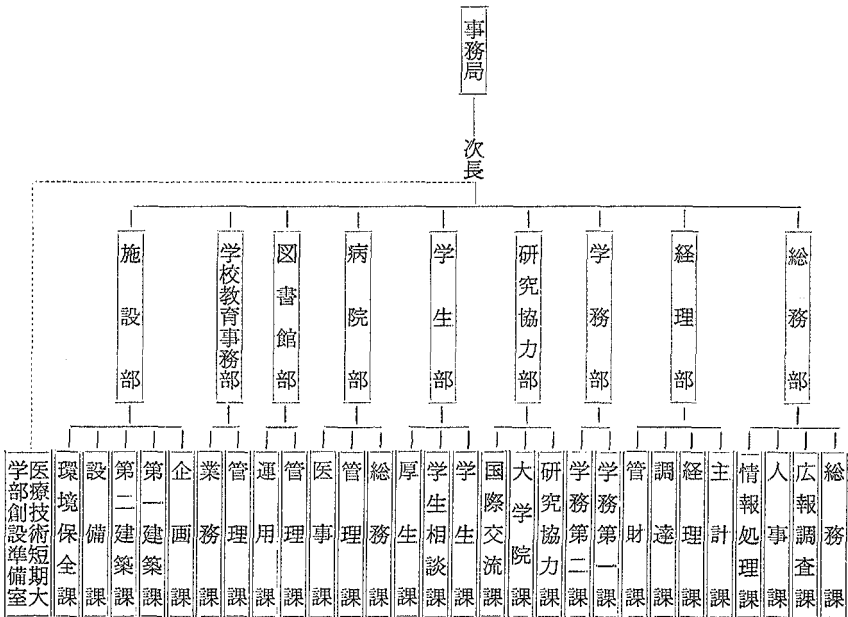
上記の学位のほか、学際的分野を専攻した者には、学術博士の学位を授与する。

資料6 筑波大学の管理運営機構





資料7 筑波大学の事務機構



(注) 各部は必要に応じ、学群、学系、センター、付属学校に職員を常駐させ、事務を処理させている。

引用資料

筑波大学『大学院便覧 昭和54年度』資料1 (p. 2)  
 “ 『学生便覧 昭和54年度』資料3 (p. 66~67)  
 “ 『履修案内 昭和54年度』資料4 (p. 7~8)  
 “ 『教官手帳 昭和54年度』資料6 (p. 7)  
 筑波大学就職委員会『筑波大学紹介 昭和54年度』資料5 (p. 8~15)  
 浜林正夫、畠山英高(編)『筑波大学』青木書店、1979 資料2 (p. 258~259), 資料7 (p. 188)

p. 149 注1) 今春より修士論文の合格と同時に修士号の修得が可能になるようである。  
 注2) 博士課程に欠員が生じた場合に、編入試験が行われることがある。